

「高齢者の痛みを受け止めよ」

少子・高齢化対策特別委員会

4月23日、少子・高齢化対策特別委員会後期高齢者医療制度について取り上げました。「県民が関心を持っているのは保険料と診療内容だ。保険料は2年ごとの改定となっているが今後どうなるのか」と、支払えなかった場合の保険証交付について問いました。酒井俊昭長寿社会課国保主幹は「保険給付費によって決まってくるので疾病予防が重要となる」「保険料滞納した場合は、国保と同様に（窓口で医療費全額を支払わなければならない）資格証発行が可能だが慎重に対応する」と答弁しました。私は、「国会では保険料は2025年には倍になると指摘されている」と述べ、「県の医師会は、制度の根幹である後期高齢者診療料について良い医療を提供できないとして算定を自しゅくしている現状だ。山形市の岩波地域では、この制度への不安もあって親子心中が起きている。多くの高齢者の方々の痛みを受け止め、国に対しても県民の立場で言っていくべきだ」と質しました。藤田健康福祉部長は「後期高齢者医療制度については、徴収ミスなど混乱もあった。市町村の担当者との会議も予定されており、今後適切に対応していきたい」と答えるにとどまりました。



県に要請する県社会保障推進協議会と党県議団 = 4月22日

社会保障充実を要請
 1 山形県社会保障推進協議会
 4月22日、山形県社保協が県に社会保障充実を要請し、党県議団も同席しました。
 特に、後期高齢者医療制度について、制度の矛盾を指摘する声があいつぎました。



2008年5月4日
 第31号
 発行
 日本共産党県議会議員
 渡辺ゆり子
 <連絡先>
 日本共産党県議団執務室
 電話 023-630-3241
 自宅・山形市青田2-10-5
 電話 023-642-2365

小規模企業対策の強化を

商工労働観光常任委員会

4月22日開かれた商工労働観光常任委員会で県信用保証協会の代位弁済について質しました。昨年度、倒産企業などに代わって債務を支払った代位弁済の額が過去最高の72億5400万円に上ったと報道されています。
 内容と今後の見通しについて、山田栄造産業政策課金融対策主幹は「負債1000万円未満の中小零細企業の倒産が多くなっている。延滞債務もあり、県内の経済状況はきびしい」と答えました。私は「県は企業誘致や産業立地に力を入れているが、一方で県内経済を支える小企業倒産が増えている状況では活性化につながらない。小規模な企業への支援を強めるべき」と主張しました。渥美産業政策課長は「これまでの金融対策に加えて、今年度設置したやまがた産業夢未来基金の活用などで支援していきたい」と答えました。

制度見直しを求める請願は またまた継続に

4月22日開かれた厚生文化常任委員会で、後期高齢者医療制度の見直しを求める請願について、日本共産党の笹山一夫県議団長が採択を主張して審問しましたが、なお調査必要としてまたまた継続審議となりました。

ゆり子の視点

親子ともクラブ落成

4月20日、桜田小学区の学童保育「桜子どもクラブ」の落成祝賀会に出席しました。子どもたちは「クラブが広くなりうれしい。いっぱい遊べる」と笑顔いっぱい。桜子どもクラブはこれまで移転をくり返し、今度ようやく落ち着ける居場所が確保できました。これまで父母の方々が苦勞を重ね各方面に働きかけて努力してきた熱意が実ったのです。地域の中で、異年齢の子どもたちが個性をぶつけあって育ちあえる環境は、現在とても大切になっているのではないのでしょうか？
 5月5日は、子どもの日です。どの子どものびのびと成長できるような子育て環境や教育条件の整備は大人たちの、特に政治の大きな責任です。鯉のぼりが力いっぱい泳げるように気持ちのよい風を吹かせてやろうではありませんか。